

看護とともに歩む病院建築

新しい外来から病棟まで

竹村 和晃 戸田建設(株) 建築設計統轄部
計画設計部 医療グループ長

ますます厳しくなる医療環境のなか、急性期医療においてもDPCの運用の浸透と共に新たな病院設計の仕組みが求められている。特に医師・看護師の不足は全国的に深刻な状況となっている。このような中で、医師・看護師の方々が働きやすく、効率的な運営を実現できる施設を提案することは、職場満足度や労働生産性の向上を促し、ひいては患者満足度の向上に繋がると考えられる。

また、DPC下において平均在院日数の短縮は必須条件となると考えられるが、そのための入院医療の外来化や病棟看護の運用フロー・入退院業務フローの見直し等多くの新たな仕組みが必要となる。そして、この新たな仕組みに対応したハード(施設)を整備するとより大きなインパクトを持った効果を発揮することが予測される。

今回は、その事例として当社設計施工により2006年1月にオープンした東海大学医学部付属病院新病院棟を取り上げ報告する。当病院では特に看護業務の改善に着目しており、「病院は看護の家」という認識のもとで病棟設計を行った。以下に報告のポイントを示す。

1. 新しい外来・・・一日で結果の出る外来
 - ・ 検体検査結果の早期報告
 - ・ 放射線診断、整理検査の早期報告
2. 新しい病棟・・・病棟負荷の軽減
 - ・ 大型スタッフステーション看護業務
 - ・ SSリンクの効用・・・物流と看護動線
 - ・ 手術とICU
3. 外来から病棟へ
 - ・ 入退院業務の見直し
 - ・ PFM(ペイシェント・フロー・マネジメント)の開発
4. まとめ
 - ・ 医療のプロと医療機器や建築のプロとのコラボレーション
 - ・ ソフトとハードとの融合
 - ・ オペレーションとシステムとデザイン